



# Sun SPARC® Enterprise M8000/M9000 サーバー プロダクトノート

---

XCP 1071 版

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 820-5802-11  
2008 年 7 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して米国 Sun Microsystems 社および富士通株式会社は、有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社およびサン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものではありません。本書は、富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものではありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または米国 Sun Microsystems 社へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、一般ユーザーからのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Java, Netra, Sun Ray, docs.sun.com, OpenBoot, Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社またはその子会社の商標もしくは登録商標です。サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. 社および富士通株式会社が米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限りです。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもとに第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

<b>原典:</b>	<i>Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 Servers Product Notes for XCP Version 1071</i> Part No: 820-5186-11 Revision A
------------	--



Adobe PostScript



# 目次

---

はじめに	vii
Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート	1
XCP 1071 の新着情報	1
サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン	2
WAN ブートサーバーの使用	3
Solaris パッチに関する情報	3
Solaris 10 8/07 と SPARC64 VII CPU を使用する場合は必須パッチ	3
Solaris 10 11/06 OS の必須パッチ	4
XCP 1071 へのアップグレード	5
XSCF ファームウェアのリセット	5
OpenBoot PROM ファームウェアの更新	5
XCP 104 $n$ からのアップグレード	5
一般的な機能の問題と制限	6
SPARC64 VII プロセッサの制限	6
一般的な機能の問題と制限	6
ハードウェアの取り付けおよび保守に関する問題	8
Sun Crypto Accelerator 6000 カード	8
ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題	9
XCP に関する問題と回避方法	9

Solaris OS に関する問題と回避方法	10
サポートされているすべてのリリースの Solaris に関する問題	11
Solaris 10 5/08 で修正された Solaris に関する問題	15
Solaris 10 8/07 で修正された Solaris に関する問題	19
Sun Management Center ソフトウェアに関する問題と回避方法	21
ソフトウェアドキュメントの変更予定	21
ソフトウェアの追加手順	24
WAN ブートサーバーからの起動	24
システム内の縮退メモリーの識別	25
▼ システム内の縮退メモリーを識別する	25
システムボード上の異なるメモリーサイズの識別	25
▼ showdevices コマンドを使用する	25
▼ prtdiag コマンドを使用してメモリーサイズを識別する	26
ターゲットボードの永続メモリーの識別	27
▼ ターゲットボードの永続メモリーを識別する	27
サーバーへの SPARC64 VII プロセッサの追加 – 保守担当者のみ	28
インストールおよび取り付けに関する注意	29
プロセッサアップグレード時の OBP ファームウェアの更新	29
DR を使用したドメインへの SPARC64 VII CPU の追加	29
▼ 新しい SPARC64 VII 搭載 CMU を新しいドメインとして追加する	30
既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサの追加	32
▼ 既存のドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する準備をする	33
▼ SPARC64 VI で構成されているドメインに、SPARC64 VII を搭載した新しい CMU を追加する	35
▼ 既存のドメインで既存の CMU を SPARC64 VII にアップグレードする	37

# はじめに

---

本書では、Sun SPARC® Enterprise M8000/M9000 サーバーのハードウェア、ソフトウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報について説明します。

---

## ソフトウェアリソース

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーには、Solaris™ オペレーティングシステムおよび Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプリインストールされています。

## Sun Java Enterprise Server

Sun Java Enterprise Server は、ソフトウェアへの投資を最大限に活用できる、ソフトウェアとライフサイクルサービスの包括的なセットです。概要およびドキュメントについては、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/javaes/index.xml>

---

注 – Java Enterprise System 5 Update 1 のインストール上の問題により (CR 6644798)、ご使用のシステムで WebConsole SMF サービスを有効にしなければならない場合があります。

---

### ▼ WebConsole SMF サービスを有効にする

- root として端末にログインし、次のコマンドを入力します。  
# `svcadm enable svc:/system/webconsole:console`

ソフトウェアの再ロードが必要になった場合は、次の Web サイトにアクセスして、ソフトウェアのダウンロードおよびインストールの手順を確認してください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

最新のソフトウェアをダウンロードした場合、そのソフトウェアには、ご使用のサーバーに必須のパッチが含まれていない可能性があります。ソフトウェアのインストール後、必須パッチについては [3 ページの「Solaris パッチに関する情報」](#)を確認し、必須パッチの確認方法およびインストール方法については [viii ページの「最新の Solaris パッチの入手」](#)を確認してください。

## 最新の Solaris パッチの入手

使用しているシステムに、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバー用の Solaris 必須パッチを事前にインストールしておく必要があります。使用しているバージョンの Solaris OS で必要なパッチの一覧については、[3 ページの「Solaris パッチに関する情報」](#)を参照してください。



---

**注意** – Solaris 10 11/06 OS が動作している Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーでは、Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ [123003-03](#) および [124171-06](#) をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、必要に応じて <http://sunsolve.sun.com/> からダウンロードできます。これよりあとのバージョンの Solaris 10 OS が動作しているサーバーでは、これらのパッチは必要ありません。

---

Sun Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、最新の必須パッチセットでシステムを更新することができます。Sun Connection Update Manager の詳細は、次の Web サイトにある『[Sun Update Connection System 1.0.8 管理ガイド](#)』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-7283>

または、次の URL にアクセスしてください。

<http://wikis.sun.com/display/SunConnection/Update+Manager>

使用しているシステムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用して最新の Solaris OS パッチを入手するには、次の 2 つの方法があります。

- [ix ページの「Update Manager GUI を使用したパッチの入手」](#)
- [x ページの「smpatch CLI を使用したパッチの入手」](#)

インストールに関する情報と README ファイルがパッチと一緒にダウンロードされます。



## Update Manager GUI を使用したパッチの入手

1. root で、次のいずれかの方法で Update Manager を起動します。
  - 「JDS Launch」メニューで、  
「Launch」->「Applications」->「System Tools」->「Update Manager」の順に選択します。
  - 端末ウィンドウで、  
`/usr/bin/updatesmanager` と入力します。
2. 登録を完了します。
  - すでに登録が完了している場合は、[手順 3](#)に進みます。
  - まだ登録が完了していない場合は、Update Manager によって登録手続きに進みます。画面上の指示に従います。

---

注 – Sun Connection Update Manager GUI で正常に登録できない場合は、コマンド行インタフェース (CLI) オプションを使用してパッチを入手してください。[x ページ](#)の「[smpatch CLI を使用したパッチの入手](#)」を参照してください。

---

3. Update Manager の「Available」タブで、「Update Collection」ドロップダウンメニューを開き、「Sun SPARC(R) Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers」を選択します。  
Update Manager がシステムを分析して、必要なパッチを判断します。
4. カーネルパッチが推奨される場合は、パッチ ID の左にあるボックスをクリックしてこのパッチ ID を選択してから、「Install」ボタンをクリックします。  
パッチが `/var/sadm/spool` にダウンロードされます。

---

注 – カーネルパッチ (たとえば、パッチ 118833-xx など) のインストールには、特別な手順が必要です (詳細はパッチの README を参照)。多くの場合、カーネルパッチはダウンロードのみの (対話型) パッチで、手動でのインストールが必要になります。パッチセット内のほかのパッチをインストールするには、カーネルパッチを先にインストールする必要があります。

---

5. カーネルパッチの場合は、続けて次のように入力します。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip patchid-xx.jar
```

6. 次のファイルに記載されているインストール手順を実行します。  
`/var/sadm/spool/patchid-xx/README.patchid-xx`

7. `patchid-xx` のインストール後、`shutdown` コマンドを使用してシステムを再起動します。

`reboot` コマンドでは、再起動を必要とするパッチのインストールが完了しません。このコマンドではなく、Update Manager または `shutdown` コマンドを使用する必要があります。

```
# shutdown -i6
```

8. Update Manager をふたたび起動して、[手順 3](#) と同じコレクションメニューを再度選択します。
9. Update Manager が新たな分析を自動的に開始しない場合は、「Check for Updates」ボタンをクリックします。
10. パッチ ID の左にあるボックスをチェックして、一覧に表示されているパッチを選択します。
11. 「Install」ボタンをクリックします。  
Update Manager によって、パッチがダウンロードおよびインストールされます。
12. いずれかのパッチでシステムの再起動が必要な場合は、[手順 7](#) の手順を実行します。  
再起動を必要とするパッチがインストールされた場合、Update Manager によってシステムの再起動が行われます。または、[手順 7](#) で説明したように、`shutdown` コマンドを使用できます。再起動を必要とするパッチの場合は、インストールを有効にするために再起動が必要です。

これでパッチのインストールが完了しました。

## smpatch CLI を使用したパッチの入手

1. `/usr/lib/breg/data/RegistrationProfile.properties` ファイルを `/tmp` ディレクトリにコピーします。
2. `/tmp/RegistrationProfile.properties` ファイルを編集して、ユーザー名およびパスワードと、必要に応じてネットワークプロキシおよびポートを追加します。

---

注 – ユーザー名およびパスワードは、Sun オンラインアカウントです。アカウントを作成するには、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスしてください。

---

3. 次のコマンドを入力して、システムを登録します。

```
# sconadm register -a -r /tmp/RegistrationProfile.properties
```

4. 次のコマンドを入力して、使用しているシステムに適切なパッチを入手します。

```
# smpatch set patchpro.patchset=sem4k5k8k9k
```

5. カーネルパッチをすべてインストールします。

118833-xx などのカーネルパッチは Sun Connection Update Manager を介してダウンロードできます。

- a. 次のように入力して、`/var/sadm/spool` ディレクトリにパッチをダウンロードします。

```
# smpatch update -i patchid-xx
```

- b. 次のように入力して、パッチを解凍します。

```
# cd /var/sadm/spool  
# unzip patchid-xx.jar
```

- c. `/var/sadm/spool/patchid-xx/README.patchid-xx` ファイルに記載されているインストール手順に従って、パッチをインストールします。

6. カーネルパッチのインストール後、`shutdown` コマンドを使用してシステムを再起動します。

`reboot` コマンドでは、再起動を必要とするパッチのインストールが完了しません。このコマンドではなく、Update Manager または `shutdown` コマンドを使用する必要があります。

```
# shutdown -i6
```

7. 次のコマンドを入力して、インストールするパッチの一覧を表示します。

```
# smpatch analyse
```

8. 次のコマンドを入力して、パッチをダウンロードおよびインストールします。

```
# smpatch update
```

9. いずれかのパッチでシステムの再起動が必要な場合は、[手順 6](#) を参照します。

再起動を必要とするパッチがインストールされた場合、Update Manager によってシステムの再起動が行われます。または、[手順 6](#) で説明したように、shutdown コマンドを使用できます。再起動を必要とするパッチの場合は、インストールを有効にするために再起動が必要です。

これでパッチのインストールが完了しました。

## 追加情報

詳細情報については、使用しているバージョンの Solaris OS のリリースノートを参照するか、次の URL から入手してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m9k?l=ja>

---

## マニュアルへのアクセス

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーの設置、管理、および使用に関する手順は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーのドキュメントセットに記載されています。次の Web サイトから、ドキュメントセット全体をダウンロードして入手できます。

- SPARC Enterprise M8000:  
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m8k?l=ja>
- SPARC Enterprise M9000:  
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m9k?l=ja>

---

**注** – 本書に記載されている情報は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーのドキュメントセットの情報よりも優先されます。

---

Solaris 10 オペレーティングシステム (Solaris OS) のドキュメントは、次の URL から入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

---

# マニュアル、サポート、およびトレーニング

---

Sun のサービス	URL
マニュアル	<a href="http://jp.sun.com/documentation/">http://jp.sun.com/documentation/</a>
サポート	<a href="http://jp.sun.com/support/">http://jp.sun.com/support/</a>
トレーニング	<a href="http://jp.sun.com/training/">http://jp.sun.com/training/</a>

---

---

## コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun™ SPARC® Enterprise M8000/M9000 サーバープロダクトノート』、Part No. 820-5802-11



# Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバー プロダクトノート

---

本書は、次の内容を含んでいます。

- [1 ページの「XCP 1071 の新着情報」](#)
- [2 ページの「サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」](#)
- [3 ページの「Solaris パッチに関する情報」](#)
- [5 ページの「XCP 1071 へのアップグレード」](#)
- [6 ページの「一般的な機能の問題と制限」](#)
- [8 ページの「ハードウェアの取り付けおよび保守に関する問題」](#)
- [9 ページの「ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題」](#)
- [21 ページの「ソフトウェアドキュメントの変更予定」](#)
- [24 ページの「ソフトウェアの追加手順」](#)
- [28 ページの「サーバーへの SPARC64 VII プロセッサの追加 – 保守担当者のみ」](#)

---

## XCP 1071 の新着情報

- XCP Version 1071 から、SPARC64<sup>TM</sup> VII および SPARC64 VI プロセッサを SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバードメイン内で組み合わせて使用できるようになりました。

SPARC64 VII プロセッサの取り付け方法については、[28 ページの「サーバーへの SPARC64 VII プロセッサの追加 – 保守担当者のみ」](#)を参照してください。取り付けを実行できるのは認定された保守担当者のみです。

# サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

表 1 に、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーでサポートされているソフトウェアおよびファームウェアの最小必須バージョンを示します。以前のバージョンの XCP ファームウェアからアップグレードする場合は、[5 ページの「XCP 1071 へのアップグレード」](#) も参照してください。

表 1 ソフトウェアおよびファームウェアの最小バージョン

ソフトウェアまたはファームウェア	バージョン
XSCF Control Package	
SPARC64 VII プロセッサ搭載	: XCP 1070
Capacity on Demand (COD) サポート	: XCP 1050
Solaris オペレーティングシステム	
SPARC64 VI プロセッサ搭載	: Solaris 10 11/06 (必須パッチ適用済み)*
SPARC64 VII プロセッサ搭載	: Solaris 10 5/08、または Solaris 10 8/07 (必須パッチ適用済み)*

\* パッチの詳細は、[3 ページの「Solaris パッチに関する情報」](#) を参照してください。

表 2 に、XSCF Web で使用する Web ブラウザの最小サポートバージョンを示します。

表 2 Web ブラウザの最小バージョン

Web ブラウザアプリケーション	バージョン
Firefox	2.0
Microsoft Internet Explorer	6.0
Mozilla	1.7
Netscape Navigator	7.1



## WAN ブートサーバーの使用

ネットワーク上の Solaris WAN ブートサーバーから Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーを起動する場合は、適切な wanboot 実行可能ファイルをインストールして必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。詳細は、[24 ページの「WAN ブートサーバーからの起動」](#)を参照してください。

---

## Solaris パッチに関する情報

次の場合は、Solaris パッチが必要になります。

- SPARC64 VII CPU を搭載し、Solaris 10 8/07 が動作する SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバー
- Solaris 10 11/06 OS が動作するすべての SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバー

パッチの README を必ず参照して、パッチの要件とインストールの特別な手順について確認してください。

この節で示すパッチ ID は、インストールする必要があるパッチの最小レベルを示しています。下 2 桁は、パッチの最小バージョンを示します。

最新のパッチバージョンは [sunsolve.sun.com](http://sunsolve.sun.com) で確認し、最新のパッチの検出方法と一般的なインストール手順については [viii ページの「最新の Solaris パッチの入手」](#)を参照してください。

## Solaris 10 8/07 と SPARC64 VII CPU を使用する 場合の必須パッチ

次のパッチは、SPARC64 VII CPU を搭載したサーバー上の Solaris 10 8/07 OS に対してのみ必要です。次に示す順序でインストールしてください。

1. 119254-51 – SunOS 5.10: インストールおよびパッチユーティリティパッチ
2. 125891-01 – SunOS 5.10: libc\_psr\_hwcap.so.1 パッチ
3. 127755-01 – SunOS 5.10: Fault Manager パッチ
4. 127127-11 – SunOS 5.10: カーネルパッチ

また、次の 2 つの節に示す PCI-E または PCI-X カードのいずれかを使用する場合は、追加のパッチもインストールする必要があります。

## Emulex PCI-E および PCI-X カードのパッチ

次の Emulex カードには、パッチ 120222-26 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA (パーツ SG-XPCIE2FC-EM4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA (パーツ SG-XPCIE1FC-EM4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-X HBA (パーツ SG-XPCI2FC-EM4-Z)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-X HBA (パーツ SG-XPCI1FC-EM4-Z)

## QLogic PCI-E および PCI-X カードのパッチ

次の QLogic カードには、パッチ 125166-10 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA (パーツ SG-XPCIE2FC-QF4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA (パーツ SG-XPCIE1FC-QF4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-X HBA (パーツ SG-XPCI2FC-QF4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-X HBA (パーツ SG-XPCI1FC-QF4)

## Solaris 10 11/06 OS の必須パッチ

Solaris 10 11/06 OS には、次のパッチが必要です。これらの必須パッチを適用しても、Solaris 10 11/06 では SPARC64 VII プロセッサはサポートされません。次に示す順序でパッチをインストールしてください。

1. 118833-36: ドメインを再起動してから次の手順に進んでください。
2. 125100-10: その他のパッチ要件の一覧については、パッチの README ファイルを参照してください。
3. 123839-07
4. 120068-03
5. 125424-01
6. 118918-24

7. 120222-21
8. 125127-01: ドメインを再起動してから次の手順に進んでください。
9. 125670-02
10. 125166-05

---

## XCP 1071 へのアップグレード

XCP version 1050 以降から、XCP 1071 にアップグレードすることができます。手順については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

## XSCF ファームウェアのリセット

XCP ファームウェアを 1070 または 1071 にアップグレードしたあとで、`rebootxscf(8)` コマンドを使用して XSCF をリセットする必要があります。

## OpenBoot PROM ファームウェアの更新

OpenBoot™ PROM (OBP) ファームウェアを更新完了の状態にするには、対象とするドメインを必ず再起動してください。更新が完了したら、できるだけ早くドメインを再起動する必要があります。

## XCP 104*n* からのアップグレード

XCP 1050 より前のバージョンが現在動作している場合は、まず中間のバージョンである 1050 ~ 1070 (1070 を含む) の XCP にアップグレードしてから、XCP 1071 にアップグレードする必要があります。手順については、対象とする中間バージョンの製品ノートを参照してください。

---

## 一般的な機能の問題と制限

ここでは、本リリース時点でわかっているハードウェアおよびソフトウェアの問題について説明します。

### SPARC64 VII プロセッサの制限

- 1 つの Solaris ドメインで、ドメインサイズが 256 仮想プロセッサを超えないようにしてください。この制限の詳細は、表 5 の CR ID 6619224 を参照してください。
- SPARC Enterprise M9000 サーバーで、1 つのドメインに SPARC64 VII プロセッサを搭載したボードが 16 枚含まれている場合、SunVTS 7.0ps2 ソフトウェアは起動しません。  
この問題を回避するには、それぞれ 8 枚のボードを含むドメインを 2 つ使用するように構成を変更してください。

## 一般的な機能の問題と制限



---

**注意** – 動的再構成 (DR) およびホットプラグに関する問題については、[10 ページの「Solaris OS に関する問題と回避方法」](#)を参照してください。

---

---

**注** – 分電盤のメインラインスイッチまたは回路遮断機によってシステムの電源を再投入する場合は、電源を切断したあと 30 秒以上待ってから電源を投入してください。

---

- DR は XSCF フェイルオーバーまたは XSCF リセットと互換性がありません。DR 操作中に XSCF フェイルオーバーまたはリセットを開始しないでください。DR 操作が終了してからフェイルオーバーまたはリセットを開始してください。フェイルオーバーまたはリセットを先に開始した場合は、フェイルオーバーまたはリセットが終了してから DR 操作を開始してください。
- ドメインで次のいずれかのバージョンの Solaris OS が動作している場合は、対処が必要です。
  - Solaris 10 5/08 OS
  - これより前のバージョンの Solaris 10 OS で、パッチ ID 127127-11 が適用されたもの

この場合、システム仕様ファイル (/etc/system) に次のパラメータを設定する必要があります。

```
set heaplp_use_stlb=0
```

そのあと、ドメインを再起動します。

詳細は、表 5 の CR 6718173 を参照してください。

- PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP カード (1027A-Z/X1027A-Z) には、下記の制限が適用されます。
  - 各ドメインで、カードを 3 枚以上使用することはできません。
  - PCI ボックスで、これらのカードを使用することはできません。
- PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP カード (4447A-Z/X4447A-Z) には、下記の上限が適用されます。
  - PCI ボックス内で、カードを 5 枚以上使用することはできません (PCIe I/O ポート 1 台あたり 2 枚)。
  - ドメイン内で、カードを 9 枚以上使用することはできません。
- Solaris 10 5/08 より前のバージョンの Solaris を使用している場合は、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーで 1 ドメインあたり 7 枚以上の IOUA カードを搭載しないでください。
- OpenBoot™ PROM ファームウェアを更新完了の状態にするには、対象とするドメインの電源のオフ/オンを必ず行なってください。
- Solaris OS がシングルユーザーモードの場合、ドメインコンソールから XSCF シェルに移行しないでください。Solaris OS がマルチユーザーモードに切り替わることがあります。
- CD-RW/DVD-RW ドライブユニットとテープドライブユニットを同時に使用しないでください。
- XSCF ブラウザインタフェース (XSCF Web) は、PCI ボックス管理機能をサポートしていません。
- PCI ボックスを使用してホストサーバーを外部ブートディスクドライブに接続することは、サポートされていません。
- 次の語は XSCF ファームウェアによりシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。adm、admin、apache、bin、daemon、default、ldap、nobody、ntp、operator、root、rpc、rpcuser、および sshd
- Service Processor (SP) を Network Time Protocol (NTP) サーバーとして使用しないでください。独立した NTP サーバーを使用することによって、SP とドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTP の詳細は、Sun Blueprint のドキュメント『Using NTP to Control and Synchronize System Clocks』 (<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>) を参照してください。

# ハードウェアの取り付けおよび保守に関する問題

この節の表 3 では、障害変更要求 ID が割り当てられた既知の問題と、その回避方法について説明します。これらの問題を修正する新規パッチが入手可能かどうかを確認するには、次のサイトにアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

この節では、Sun Crypto Accelerator 6000 カードの問題についても説明します。

サーバーへの SPARC64 VII プロセッサの取り付け方法については、[28 ページの「サーバーへの SPARC64 VII プロセッサの追加 - 保守担当者のみ」](#)の節を参照してください。

表 3 ハードウェアに関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6433420	起動中に、ドメインコンソールがメールボックスタイムアウトまたは IOCB 割り込みタイムアウトのエラーを表示することがあります。	OBP (OK) プロンプトから <code>reset-all</code> コマンドを発行し、再起動してください。

## Sun Crypto Accelerator 6000 カード

適切なバージョンの Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードドライバを使用していない場合、SCA 6000 カードでホットプラグ操作を行うと、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーでパニックまたはハングアップが発生する可能性があります。必要な `bootstrap` ファームウェアをアップグレードしたあと、Version 1.1 の SCA6000 ドライバおよびファームウェアでホットプラグ操作がサポートされます。SCA6000 ドライバの Version 1.0 はホットプラグをサポートしていないため、使用しないでください。

# ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題

ここでは、特定のソフトウェアとファームウェアに関する問題とその回避方法について説明します。パッチを入手するには、またこれらの問題を修正する新規パッチが入手可能かどうかを確認するには、次のサイトにアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

## XCP に関する問題と回避方法

表 4 に、XCP に関する問題と、これらの問題に対して実行可能な回避方法を示します。

表 4 XCP に関する問題と回避方法 (1 / 2)

ID	説明	回避方法
6565422	showarchiving の Latest communication フィールドが定期的に更新されません。	archiving をいったん無効にしてからふたたび有効にすると、showarchiving の出力の Latest communication フィールドが更新されます。
6575425	スタンバイ側の XSCF で XSCF コマンドを実行したとき、ほとんどの場合は「Permission denied」と表示されるはずですが、一部のコマンドでは、さまざまなエラーが通知されます。	スタンバイ側の XSCF で実行できるコマンドは、snapshot、switchscf コマンドのみです。 スタンバイ側の XSCF でこれら 2 つのコマンド以外を実行しないでください。
6588650	バックアップ XSCF への、またはバックアップ XSCF からの XSCF フェイルオーバー後に、DR が実行できないことがあります。	有効な回避方法はありません。
6624646	Sun Connection Update Manager GUI で正常に登録できない場合があります。	GUI の登録に関する問題が発生した場合は、コマンド行インタフェース (CLI) を使用してください。

表 4 XCP に関する問題と回避方法 (2 / 2)

ID	説明	回避方法
6665174	<p>XSCF の <code>deleteboard(8)</code> コマンドおよび <code>addboard(8)</code> コマンドを使用して動的再構成操作を行うと、I/O チャンネル縮退が確認され、エラーメッセージが表示され、関連する <code>ereport</code> にエントリが登録されることがあります。</p> <p>この問題が発生した場合は、<code>fmdump(8)</code> コマンドによって次のエラーが表示されます。</p> <pre>ereport.chassis.SPARCEnterprise.asic.ioc.ch.leaf.fe</pre>	<p>認定された保守担当者は、さらに診断を行うか、またはこのエラーをクリアーすることができます。</p>
6674742	<p>多くの障害が発生してシステムに負荷がかかると、サービスプロセッサの <code>fmd</code> プロセスがハングアップする場合があります。いったんこれが発生すると、サービスプロセッサで <code>fma</code> コマンドが失敗またはハングアップする可能性があります。</p>	<p>XSCF コマンドの <code>rebootxscf</code> を使用してサービスプロセッサを再起動します。</p>
6675409	<p>COD ボードで DR 操作の実行中に COD ライセンスキャパシティが変更されると、一部の COD CPU が <code>Faulted</code> とマークされることがあります。</p> <p>この場合は、保守対応によって修正する必要があります。</p>	<p>COD ボードでの DR 操作の実行中には、COD ライセンスキャパシティを変更しないでください。</p> <p>COD ライセンスキャパシティは、ライセンスを追加または削除 (<code>addcodlicense</code> または <code>deletecodlicense</code> コマンドを使用) したり、ヘッドルームを変更 (<code>setcod</code> コマンドを使用) したりすることで変更されます。DR 操作の実行中は、これらのコマンド (または同等のブラウザ操作) を使用しないでください。</p> <p>COD ライセンスキャパシティは、DR 操作の完了後に変更できます。</p>
6679286	<p><code>setsnmpusm passwd</code> コマンドでパスワードを設定する場合に、8 文字未満でパスワードを設定すると、セグメント例外が発生します。</p>	<p>パスワードは常に 8 文字以上で設定してください。</p>

## Solaris OS に関する問題と回避方法

ここでは、Solaris OS に関する問題について説明します。表 5、表 6、および表 7 に、使用する Solaris OS のリリースに応じて、発生する可能性のある問題を示します。



## サポートされているすべてのリリースの Solaris に関する問題

表 5 に、Solaris OS のサポートされているすべてのリリースで発生する可能性のある Solaris OS に関する問題を示します。

表 5 サポートされているすべてのリリースでの Solaris OS に関する問題と回避方法 (1 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6449315	Solaris の <code>cfgadm(1M)</code> コマンドを実行しても、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバー上のドメインから DVD ドライブが構成解除されません。	<code>cfgadm(1M)</code> コマンドで DVD ドライブを構成解除するには、事前にボリューム管理デーモン ( <code>vold</code> ) を無効にします。 <code>vold</code> を無効にするには、 <code>/etc/init.d/volmgt stop</code> コマンドを実行してデーモンを停止します。デバイスの取り外しまたは取り付けを行なったあと、 <code>/etc/init.d/volmgt start</code> コマンドを実行してデーモンを再起動します。
6459540	DAT72 内蔵テープドライブがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。また、このデバイスがシステムに QIC ドライブとして識別されることもあります。	次の定義を、 <code>/kernel/drv/st.conf</code> に追加してください。  <pre>tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT____DAT72-000", "SEAGATE_DAT____DAT72-000"; SEAGATE_DAT____DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3;</pre> SEAGATE DAT と DAT72-000 の間には、4 つの半角スペースがあります。
6511374	エラーが多すぎてメモリーバンクが使用不可になった場合に、起動中にメモリー変換の警告メッセージが表示されることがあります。	システムの再起動後に、 <code>fmadm repair</code> コマンドを使用して、次の起動時に問題が再現しないようにできます。
6522017	ZFS ファイルシステムを使用しているドメインでは、DR を使用できません。	ZFS ARC の最大サイズを小さくしてください。詳細は、ご購入先にお問い合わせください。
6531036	<code>boot net</code> インストール後、 <code>network initialization failed</code> のエラーメッセージが繰り返し表示されることがあります。	有効な回避方法はありません。

表 5 サポートされているすべてのリリースでの Solaris OS に関する問題と回避方法 (2 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6533686	システムリソースで XSCF が少ない場合、永続メモリーを再配置する DR の deleteboard または moveboard 操作が、次の 1 つまたは複数のエラーを表示して失敗することがあります。 SCF busy DR parallel copy timeout これは、複数のドメインのホストである Quad-XSB が構成されたシステムボードの場合にのみ当てはまります。	あとで、DR 操作をやり直してください。
6535018	SPARC64 VII プロセッサを含む Solaris ドメインで、スレッド数を 257 以上の値に増やした場合、Solaris カーネルに大きな負担をかける作業負荷を期待したようには調整できない場合があります。	SPARC64 VII プロセッサを含む Solaris ドメインでは、最大 256 スレッドを超えないようにしてください。
6572827	Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 プラットフォームの prtdiag -v の出力の IO Devices セクションに「Type」という列があります。ここには各デバイスに対して「PCIe」、 「PCIx」、「PCI」、「UNKN」のいずれかが表示されます。これらの値を処理するためのアルゴリズムに誤りがあります。PCI-X リーフデバイスには「PCI」、古い PCI デバイスには「UNKN」と表示されます。	有効な回避方法はありません。
6589644	addboard コマンドを使用して SB を追加したあとに XSCF の切り替えが発生した場合、コンソールが使用できなくなります。	有効な回避方法はありません。
6589833	DR addboard コマンドを使用し、Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HB A カード (SG-XPCIE2FC-QF4) の追加を、SAP プロセスがこのカードに取り付けられているストレージデバイスにアクセスを試みるのと同じタイミングで行おうとすると、システムのハングアップを引き起こすことがあります。次のカードが、情報の多いネットワークトラフィック上で使用されていると、システムハング発生の可能性が高まります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z、PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1、PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	有効な回避方法はありません。
6592302	DR 操作が正常に終了しなかった場合は、一部のメモリーが組み込まれたままになることがあります。	addboard -d コマンドを使用してボードをドメインに戻すと、復旧する可能性があります。

表 5 サポートされているすべてのリリースでの Solaris OS に関する問題と回避方法 (3 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6614737	次の条件下において、DR の deleteboard(8) および moveboard(8) 操作がハングアップすることがあります。 DIMM が縮退している場合 ドメインにメモリーサイズが異なるシステムボードが存在する場合	次の条件に該当する場合は、DR 操作をしないでください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>縮退メモリー: システムのメモリーが縮退しているかどうかについては、XSCF の showstatus コマンドで確認できます。出力例は、25 ページの「システム内の縮退メモリーの識別」で参照してください。</li> <li>メモリーサイズが異なる: ドメイン内のシステムボード間で搭載メモリーサイズが異なっているかどうかは、XSCF の showdevices コマンド、またはドメインの prtdiag コマンドを使用して、メモリーサイズのリストを表示して確認できます。出力例は、25 ページの「システムボード上の異なるメモリーサイズの識別」で参照してください。</li> </ul> DR コマンドがハングアップした場合は、ドメインを再起動して復旧してください。
6619224	Solaris ドメインに SPARC 64 VII プロセッサが含まれている場合、特定の異常な状況下では、256 スレッド以上の単一のドメインが長時間にわたってハングアップすることがあります。復旧すると、uptime コマンドで、極めて高い平均負荷率が表示されます。	SPARC 64 VII プロセッサを含む Solaris ドメインでは、1 つの Solaris ドメインで、ドメインサイズが 256 仮想プロセッサを超えないようにしてください。これは、1 つのドメイン構成内に、最大 32 個の CPU (M8000 サーバーでの最大構成) があることを意味します。
6623226	Solaris の lockstat(1M) コマンドまたは dtrace lockstat プロバイダを実行すると、システムパニックが発生することがあります。	Solaris の lockstat(1M) コマンドまたは dtrace lockstat プロバイダを使用しないでください。
6625734	シングルドメイン環境下で、多数のプロセッサが搭載されているシステムでは、一定の作業負荷がかかるとパフォーマンスが低下することがあります。	アプリケーションプロセスをバインドする場合はプロセッサセットを使用するか、プロセッサをグループ化させるために LWP を使用してください。詳細は、psrset(1M) のマニュアルページを参照してください。
6632549	DR 操作後に、ドメインの fmd サービスが失敗して保守モードになることがあります。	fmd サービスが失敗したときは、ドメインで次のコマンドを実行して復旧してください。 # svcadm clear fmd
6660168	ドメイン上で ubc.piowbeue-cpu エラーが発生すると Solaris Fault Management cpumem-diagnosis モジュールが失敗し、FMA サービスが中断されることがあります。 これが発生すると、コンソールログに次のように出力されます。	fmd サービスに障害が発生したときは、ドメインで次のコマンドを実行して回復してください。 # svcadm clear fmd その後、cpumem-diagnosis を再起動します。 # fmadm restart cpumem-diagnosis

表 5 サポートされているすべてのリリースでの Solaris OS に関する問題と回避方法 (4 / 4)

CR ID	説明	回避方法
	<p>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor            EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008            PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: &lt;hostname&gt;            SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0            EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1-cb03a7dd77e3            DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled. Refer to <a href="http://sun.com/msg/FMD-8000-2K">http://sun.com/msg/FMD-8000-2K</a> for more information.            AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events destined for the module will be saved for manual diagnosis.            IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur.            REC-ACTION: Use <code>fmdump -v -u &lt;EVENT-ID&gt;</code> to locate the module. Use <code>fmadm reset &lt;module&gt;</code> to reset the module.</p>	
6660197	<p>ドメインが次のどちらかの状態の場合は、DR によってドメインがハングアップする場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 つのドメインが 256 以上の CPU を含む場合</li> <li>• 256 を超えるメモリーエラーが検出された場合</li> </ul>	<p>次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. システム仕様ファイル (/etc/system) に次のパラメータを設定します。 <code>set drmach:drmach_disable_mcopy=1</code></li> <li>2. ドメインを再起動します。</li> </ol>
6663570	<p>最小番号の CPU に関する DR 操作によって、ドメインでパニックが発生することがあります。</p>	<p>DR を使用して、最小の CPU ID を持つ CPU のホストであるシステムボードを切り離さないでください。最小の CPU ID を持つ CPU を識別するには、Solaris の <code>prtdiag</code> コマンドを使用します。</p>
6664134	<p>サービスプロセッサで検出される特定の障害は、XSCF コマンドの <code>fmadm faulty</code> で報告されず、このような障害はドメインに <code>ereport</code> として渡されることもありません。</p>	<p>代わりに XSCF コマンドの <code>showstatus</code> または <code>fmdump</code> を使用してください。</p>
6668237	<p>DIMM の交換後に、対応する DIMM 障害がドメインでクリアされません。</p>	<p>修復を記録するには、<code>fmadm repair fmri uuid</code> コマンドを使用します。そのあと、<code>fmadm rotate</code> コマンドを使用すると、残りのイベントすべてをクリアできます。</p>
6718173	<p>ドメインで次のいずれかのバージョンの Solaris OS が動作している場合は、システムで正常動作中にパニックまたはトラップが発生することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Solaris 10 5/08 OS</li> <li>• これより前のバージョンの Solaris 10 OS で、パッチ ID 127127-11 が適用されたもの</li> </ul>	<p>システム仕様ファイル (/etc/system) に次のパラメータを設定します。 <code>set heaplp_use_stlb=0</code> そのあと、ドメインを再起動します。</p>

## Solaris 10 5/08 で修正された Solaris に関する問題

表 6 に、Solaris 10 5/08 OS で修正された問題を示します。この問題は、Solaris 10 5/08 より前のサポートされているリリースで発生することがあります。

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS に関する問題と回避方法 (1 / 4)

CR ID	説明	回避方法
5076574	PCIe エラーが、大規模な M8000/M9000 ドメインでの無効な障害診断につながる可能性があります。	次の行を含む、/etc/fm/fmd/fmd.conf ファイルを作成してください。 <pre>setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m</pre>
6348554	次のカード上で <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用すると、コマンドがハングアップすることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SG-XPCIE2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA</li> <li>SG-XPCIE1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA</li> <li>SG-XPCI2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-X HBA</li> <li>SG-XPCI1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-X HBA</li> </ul>	これらのカードに対して、 <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを実行しないでください。
6472153	Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 sun4u サーバー以外のサーバー上に Solaris フラッシュアーカイブを作成し、それを Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 sun4u サーバーにインストールすると、コンソールの TTY フラグが正しく設定されません。その結果、負荷の高いときにコンソールに文字が表示されないことがあります。	Solaris フラッシュアーカイブから Solaris OS をインストールした直後に Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーに telnet で入り、コンソールの TTY フラグを次のようにリセットします。 <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre>
6522433	再起動後の CPU 障害によって、 <code>fmddump</code> が正しいマザーボードを識別できないことがあります。	この作業は 1 回だけ実行してください。 現時点で回避方法はありません。
6527811	PCI カードを搭載した PCI ボックスを PCI ホットプラグで追加した場合、PCI ボックス内の PCI カードの情報が XSCF の <code>showhardconf(8)</code> コマンドで表示されません。	有効な回避方法はあります。PCI ボックス内の各 PCI カードが PCI ホットプラグを使用して設定されていれば、PCI カード情報は正しく表示されます。

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS に関する問題と回避方法 ( 2 / 4 )

CR ID	説明	回避方法
6545143	まれに、ユーザースタックアドレスの TLB ミスのトラップ処理中にシステムパニックが発生することがあります。この問題は、フラッシュウィンドウトラップ (ta 3) を実行するユーザープロセスと同時に、ユーザースタックの対応付けが解除される場合に発生する可能性があります。パニックメッセージには、次の文字列が含まれています。 bad kernel MMU trap at TL 2	有効な回避方法はありません。
6545685	電源投入時自己診断 (POST) で修正可能なメモリーエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って 4 DIMM または 8 DIMM に縮退することがあります。	/etc/system の次の設定で使用されるメモリー巡回タイムアウト値を増やし、システムを再起動してください。 set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000
6546188	次のカード上でホットプラグ (cfgadm) および DR 操作 (addboard および deleteboard) を実行すると、システムでパニックが発生します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z、PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1、PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	有効な回避方法はありません。
6551356	これまで未設定だったカードを設定するためにホットプラグ (cfgadm) を実行すると、システムのパニックが発生します。システムでパニックが発生する直前に、「WARNING:PCI Expansion ROM is not accessible」というメッセージがコンソール上に表示されます。この不具合によって、次のカードが影響を受けます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z、PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1、PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	注 - I/O カードの取り外しには、cfgadm -c unconfigure を使用しないでください。カードを完全に取り外すには、cfgadm -c disconnect コマンドを使用してください。10 秒以上待ったあと、cfgadm -c configure コマンドを使用して、カードを元のドメインに設定することができます。

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS に関する問題と回避方法 (3 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6556742	DR 中、DiskSuite が metadb を読めないときに、システムのパニックが発生します。このバグは、次のカードに影響します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SG-XPCIE2FC-QF4、4Gb PCI-e Dual-Port Fibre Channel HBA</li> <li>• SG-XPCIE1FC-QF4、4Gb PCI-e Single-Port Fibre Channel HBA</li> <li>• SG-XPCI2FC-QF4、4Gb PCI-X Dual-Port Fibre Channel HBA</li> <li>• SG-XPCI1FC-QF4、4Gb PCI-X Single-Port Fibre Channel HBA</li> </ul>	metadb の複製データに別のホストバスアダプタ経由でアクセス可能であれば、パニックは回避できます。
6559504	次のカードを使用すると、コンソール上に、 nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn という形式のメッセージが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z、PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1、PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	このメッセージは無視しても差し支えありません。
6563785	次のカードの接続を解除したあと、すぐに再接続すると、ホットプラグ操作が失敗する場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SG-XPCIE2SCSIU320Z Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA</li> <li>• SGXPCI2SCSILM320-Z Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra320 SCSI HBA</li> </ul>	カードの接続を解除したあと、2、3 秒待ってから再接続してください。
6564934	次のネットワークカードを使用している場合、永続メモリーを含むボードに対して DR の deleteboard 操作を実行すると、接続が壊れます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z、PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1、PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	DR 操作が完了したら、影響するネットワークインタフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順については、ifconfig のマニュアルページを参照してください。
6568417	CPU の deleteboard DR 操作が正常終了後、次のネットワークインタフェースの使用中に、システムのパニックが発生します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z、PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1、PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	/etc/system に次の行を追加し、システムを再起動してください。  set ip:ip_soft_rings_cnt=0

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS に関する問題と回避方法 (4 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6571370	<p>研究所でのストレステストで、次のカードを使用した際にデータ破壊が発生する場合があったことが観測されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z、PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1、PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>/etc/system に次の 1 行を追加して、システムを再起動してください。</p> <pre>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</pre>
6584984	<p>-w を指定して busstat(1M) コマンドを実行すると、ドメインが再起動される場合があります。</p>	<p>有効な回避方法はありません。-w オプションを指定して busstat(1M) コマンドを pcmu_p で実行しないでください。</p>
6589546	<p>prtdiag コマンドは、次のカードに対して、すべての I/O デバイスを表示しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SG-XPCIE2FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA</li> <li>• SG-XPCIE1FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA</li> </ul>	<p>すべてを出力する場合は、prtdiag -v コマンドを使用してください。</p>



## Solaris 10 8/07 で修正された Solaris に関する問題

表 7 に、Solaris 10 8/07 OS で修正された問題を示します。この問題は Solaris 10 11/06 でも発生することがあります。



**注意** – Solaris 10 8/07 より前のバージョンの Solaris が動作している場合、通常の操作中にシステムでパニックまたはトラップが発生することがあります。詳細は、表 7 の CR ID 6534471 を参照してください。

表 7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS に関する問題と回避方法 (1 / 2)

CR ID	説明	回避方法
6303418	1 ドメインで、CPU をフルに搭載したシステムボードを 11 枚以上使用する Sun SPARC Enterprise M9000 サーバーが、負荷の高い状況でハングアップする場合があります。	170 CPU スレッドを超えないようにしてください。  Solaris の <code>psradm</code> コマンドを使用して余分な CPU を使用不可にし、CPU スレッドの数を 1 CPU コアあたり 1 つに制限してください。例えば、すべての奇数の CPU スレッドを使用不可にするなどです。
6498283	ドメインで <code>psradm</code> を操作中に DR の <code>deleteboard</code> コマンドを使用すると、システムのパニックが発生することがあります。	有効な回避方法はありません。
6508432	疑わしい PCIe Correctable エラー (CE) が、FMA エラーログに大量に記録されることがあります。	このようなエラーをマスクするには、 <code>/etc/system</code> に次のエントリを追加し、システムを再起動してください。  <code>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</code>
6510861	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG-(X)PCIE2SCSIU320Z) を使用している場合、PCIe Correctable エラー (CE) が発生するとパニックが発生します。	この問題を回避するには、次のエントリを <code>/etc/system</code> に追加してください。  <code>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1</code>
6520990	ドメインが再起動すると、SCF が同じ物理ボードを共有している他のドメインにサービスを提供できないことがあります。DR 操作がデフォルトのタイムアウト時間を超え、パニックが発生する可能性があります。	次のステートメントを <code>/etc/system</code> に設定して DR タイムアウト時間を増やし、システムを再起動します。  <code>set drmach:fmem_timeout = 30</code>
6527781	2 つのドメイン間で DVD/DAT ドライブを移動するときに、 <code>cfgadm</code> コマンドで障害が発生します。	有効な回避方法はありません。DVD/テープドライブを再構成するために、問題が検出されたドメインで <code>reboot -r</code> を実行してください。
6530178	DR の <code>addboard</code> コマンドがハングアップする場合があります。問題が検出されると、それ以上の DR 操作はブロックされます。復旧にはドメインの再起動が必要です。	有効な回避方法はありません。

表 7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS に関する問題と回避方法 ( 2 / 2 )

CR ID	説明	回避方法
6534471	通常の実作中に、システムのパニックまたはト ラップが発生することがあります。	次の /etc/system パラメータが正しいことを 確認し、システムを再起動します。 set heaplp_use_stlb=0
6539084	ドメインに Sun Quad GbE UTP x8 PCIe (X4447A-Z) カードが存在する場合は、再起動 中にドメインパニックが発生する可能性が低く なります。	これはパッチ 125670-01 で修正されました。
6539909	boot net install コマンドを使用して Solaris OS をインストールしているとき、ネッ トワークアクセスに次の I/O カードを使用し ないでください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z/X4447A-Z、PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z/X1027A-Z、PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP</li> </ul>	代替のネットワークカードまたはオンボード ネットワークデバイスを使用し、ネットワーク 経路で Solaris OS をインストールしてくださ い。

# Sun Management Center ソフトウェアに関する問題と回避方法

表 8 に、Sun Management Center ソフトウェアに関する問題と、実行可能な回避方法を示します。

表 8 Sun Management Center に関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6654948	PlatAdmin System Components テーブルを表示するときに、アラームが表示されるまでに、約 26 分の遅延が発生することがあります。単に遅れるだけで、実際のエラーではありません。	有効な回避方法はありません。

## ソフトウェアドキュメントの変更予定

ここでは、出版後にわかった最新のソフトウェアドキュメントに関する情報やドキュメントの変更予定を示します。

表 9 ソフトウェアドキュメントの変更予定 (1 / 4)

ドキュメント	ページ	変更内容
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers Glossary』		SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーに対応するドキュメントそれぞれに含まれている用語集は、これらのドキュメントから削除されました。これに代わり、別のドキュメントとして『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers Glossary』が作成されました。
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』	9-5 ページ	9.2.2 節「サポートブラウザ」XSCF Web でサポートされる Web ブラウザの正しいリストについては、表 2 を参照してください。

表 9 ソフトウェアドキュメントの変更予定 (2 / 4)

ドキュメント	ページ	変更内容
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーガイド』	2-2 ページ	<p>2.1.1 節「XSCF シェルを使つてのセットアップの概要」。次の注を追加します。</p> <p><b>注</b> - 標準的なデフォルトのログインのほかに、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーでは、admin と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。その権限は useradm に固定されていて、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名/パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 admin としてログインすることはできません。このログインにパスワードはなく、またパスワードをこのログイン用に追加することもできません。</p> <p>デフォルトのユーザーとしてログインしたあとや、一時 admin としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録されたあとには、一時 admin アカウントは無効となります。</p> <p>デフォルトのログインが使用される前に一時 admin としてログインできない場合には、次のコマンドを実行することにより、他の誰かが前述の操作を実行していないか確認してください。</p> <pre>showuser -l</pre>

表 9 ソフトウェアドキュメントの変更予定 (3 / 4)

ドキュメント	ページ	変更内容
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバードミニストレーションガイド』	2-1 ページ	<p>「システムへのログイン」の節。次の注を追加します。</p> <p><b>注</b> - 標準的なデフォルトのログインのほかに、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバードでは、admin と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。その権限は useradm に固定されていて、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名/パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 admin としてログインすることはできません。このログインにパスワードはなく、またパスワードをこのログイン用に追加することもできません。</p> <p>デフォルトのユーザーとしてログインしたあとや、一時 admin としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録されたあとには、一時 admin アカントは無効となります。</p> <p>デフォルトのログインが使用される前に一時 admin としてログインできない場合には、次のコマンドを実行することにより、他の誰かが前述の操作を実行していないか確認してください。</p> <pre>showuser -l</pre>
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバードミニストレーションガイド』	5-1 ページ	<p>「監査について」の節。「監査ファイルツール」の節の終わりに次の注を追加します。</p> <p><b>注</b> - この章ではアーカイブされたログファイルをセットアップする方法について説明します。管理者とサービスプロバイダーは、SP Security (SUNWspec) Package を使用することにより、これらのファイルを表示することができます。使用中のサーバードにアーカイブされた XSCF 監査ログファイルを表示するには、viewauditapp(8) および mergeaudit(8) オフプラットフォーム監査ファイルビューアを使用します。</p>
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバード XSCF リファレンスマニュアル』	adduser(8) マニュアルページ	<p>ユーザー名の長さは最大 31 文字です。adduser(8) のマニュアルページには、誤ってユーザー名の長さは最大 32 文字と記述されています。</p>

表 9 ソフトウェアドキュメントの変更予定 (4 / 4)

ドキュメント	ページ	変更内容
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF リファレンス マニュアル』	sendbreak(8) マニュアルページ	sendbreak(8) コマンドは、オペレータパネルのモードスイッチが locked に設定されているときに、ドメインモードが on に設定されていると機能しません。詳細は、setdomainmode(8) のマニュアルページを参照してください。
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF リファレンス マニュアル』	viewaudit(8) マニュアルページ	viewaudit(8) のマニュアルページに示されている使用例 5 および 6 の出力例が異なります。

## ソフトウェアの追加手順

ここでは、このドキュメントで前述したいくつかの回避方法を実現するための手順を説明します。

### WAN ブートサーバーからの起動

WAN ブートインストール方法を使用すると、HTTP を使用して広域ネットワーク (WAN) 上でソフトウェアを起動およびインストールすることができます。WAN ブートサーバーから Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーを起動できるようにするには、適切な wanboot 実行可能ファイルをインストールして、必要なハードウェアをサポートできるようにする必要があります。SPARC64 VII プロセッサをサーバーに追加している場合は、例えば、新規プロセッサを追加する前に同じ手順を実行していても、この手順を実行する必要があります。

WAN ブートサーバーの詳細は、使用している Solaris 10 OS の『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。Solaris 10 OS のドキュメントは次のサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

wanboot 実行可能ファイルをアップグレードしないと、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーは次のようなメッセージを表示して、パニックを発生させます。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

## システム内の縮退メモリーの識別

### ▼ システム内の縮退メモリーを識別する

- XSCF にログインして、次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showstatus
```

メモリーボード #5 上の DIMM 番号 0A のメモリーが縮退された例を次に示します。

```
XSCF> showstatus
    MBU_B Status:Normal;
      MEMB#5 Status:Normal;
*      MEM#0A Status:Degraded;
```

## システムボード上の異なるメモリーサイズの識別

ドメイン内に異なるメモリーサイズのシステムボードが含まれているかどうかを確認する場合は、次のいずれかのコマンドを使用して、メモリーサイズをリスト表示させることができます。

- XSCF 上で `showdevices` コマンドを実行する
- ドメイン上で `prtdiag` コマンドを実行する

### ▼ `showdevices` コマンドを使用する

1. XSCF にログインして、次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

`showdevices -d` コマンドの出力の例を、次に示します。0 は `domain_id` です。

```
XSCF> showdevices -d 0
```

```
...
```

```
Memory:
```

```
-----
```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
01	00-0	65536	0	0x0000004000000000	260288			
01	03-0	16384	7384	0x0000034000000000	260288			
01	03-1	16384	0	0x0000030000000000	260288			
01	03-2	16384	0	0x000002c000000000	260288			
01	03-3	16384	0	0x0000028000000000	260288			

```
...
```

この例では、システムボード 00-0 は 64G バイトのメモリーを搭載し、他のシステムボードは 16G バイトのメモリーを搭載していることが示されています。

## ▼ prtdiag コマンドを使用してメモリーサイズを識別する

- ドメイン上で、prtdiag コマンドを実行します。

```
# prtdiag
```

prtdiag コマンドの出力例を、次に示します。



```
# prtdiag
...

===== Memory Configuration =====

  LSB      Memory  Available      Memory      DIMM      # of  Mirror Interleave
  ---      Group   Size           Status      Size      DIMMs  Mode  Factor
  ---      ---      ---           ---      ---      ---    ---    ---
  00      A       32768MB      okay       2048MB    16 no   8-way
  00      B       32768MB      okay       2048MB    16 no   8-way
  03      A       8192MB       okay       2048MB    4 no   2-way
  03      B       8192MB       okay       2048MB    4 no   2-way
  04      A       8192MB       okay       2048MB    4 no   2-way
  04      B       8192MB       okay       2048MB    4 no   2-way
  05      A       8192MB       okay       2048MB    4 no   2-way
  05      B       8192MB       okay       2048MB    4 no   2-way
  06      A       8192MB       okay       2048MB    4 no   2-way
...

```

この例は、さまざまなメモリーサイズを示しています。

## ターゲットボードの永続メモリーの識別

### ▼ ターゲットボードの永続メモリーを識別する

1. XSCF にログインして、次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

showdevices -d コマンドの出力の例を、次に示します。0 は domain\_id です。

```
XSCF> showdevices -d 0
```

```
...
```

```
Memory:
```

```
-----
```

DID	XSB	board	perm	base	domain	target	deleted	remaining
		mem MB	mem MB	address	mem MB	XSB	mem MB	mem MB
00	00-0	8192	0	0x0000000000000000	24576			
00	00-2	8192	1674	0x000003c000000000	24576			
00	00-3	8192	0	0x0000034000000000	24576			

```
...
```

4 列めの perm mem MB のエントリの値がゼロ以外の場合、永続メモリーが存在することを示します。

この例は、1674M バイトの永続メモリーが 00-2 にあることを示しています。

ボードに永続メモリーがある場合、deleteboard コマンドまたは moveboard コマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

---

## サーバーへの SPARC64 VII プロセッサの追加 – 保守担当者のみ

---

**注** – SPARC64 VII プロセッサのサーバーへの取り付けは、認定された保守担当者が行う必要があります。

---

この節では、SPARC64 VII プロセッサを SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーに取り付ける手順について説明します。手順は、次に示すように状況に応じて異なります。

- [30 ページの「新しい SPARC64 VII 搭載 CMU を新しいドメインとして追加する」](#)
- [32 ページの「既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサの追加」](#)
  - [33 ページの「既存のドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する準備をする」](#)

- 35 ページの「SPARC64 VI で構成されているドメインに、SPARC64 VII を搭載した新しい CMU を追加する」
- 37 ページの「既存のドメインで既存の CMU を SPARC64 VII にアップグレードする」

CPU# の場所に SPARC64 VII プロセッサを構成する方法の詳細は、アップグレード用 SPARC64 VII プロセッサに付属の『SPARC64 VII CPU Upgrade Requirements for High-End Servers』(Part No. 820-4493) を参照してください。このアップグレード要件に関するドキュメントの情報は、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバー サービスマニュアル』の付録 A に記載されている内容よりも優先されます。

ドメイン内でプロセッサを組み合わせて構成する方法の詳細は、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』の 2.2.13 節「ドメインモード設定」を参照してください。特に、「SPARC64 VI および SPARC64 VII プロセッサと CPU 動作モード」の節を参照してください。

## インストールおよび取り付けに関する注意

---

注 – ファームウェアを XCP 1071 にアップグレードする前に、5 ページの「XCP 1071 へのアップグレード」を参照してください。

---



---

注意 – SPARC 64 VII プロセッサをシャーシに挿入する前に、XCP ファームウェアおよび Solaris のアップグレードを完了しておく必要があります。

---

## プロセッサアップグレード時の OBP ファームウェアの更新

ドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加し、1070 より前のバージョンの XCP からアップグレードした場合は、ドメインを再起動して対象ドメインでの OBP ファームウェアへの更新を完了する必要があります。

## DR を使用したドメインへの SPARC64 VII CPU の追加

はじめて動的再構成 (DR) を使用してドメインに SPARC64 VII CPU を追加する場合は、事前に次の手順を完了しておく必要があります。

1. XCP 1071 および Solaris の互換バージョンにアップグレードします。
2. ドメインを再起動します。

## ▼ 新しい SPARC64 VII 搭載 CMU を新しいドメインとして追加する

---

注 – 新しいドメインに Solaris 10 8/07 をインストールする場合は、インストールサーバー上のパッチ適用済みのイメージからインストールする必要があります。手順 18 を参照してください。

---

1. platadm 権限を持つアカウントで、XSCF にログインします。
2. showstatus(8) コマンドを使用して、現在 Faulted または Deconfigured の状態の FRU がないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
No failures found in System Initialization.
```

3. オペレータパネルのキー位置を Locked から Service に変更します。
4. XSCF スナップショットを収集して、アップグレードを実行する前にシステム状態を保存します。

アップグレード手順の実行中に問題が発生した場合に、システム状態のスナップショットが役立つことがあります。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

5. XCP のバージョンを 1071 に更新します。  
ファームウェアを XCP 1071 に更新する前に、5 ページの「XCP 1071 へのアップグレード」を参照してください。ファームウェアの更新手順については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。
6. XSCF ファームウェアをリセットします。

```
XSCF> rebootxscf
```

7. fieldeng 権限を持つアカウントを使用して、ふたたび XSCF にログインします。
8. 追加する CMU に、CPU モジュール (CPUM) を取り付けます。  
手順については、『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーサービスマニュアル』の 6.4.1 節「CPU モジュールの交換」を参照してください。
9. サーバーに手順 8 の CMU を取り付けます。

- a. `addfru(8)` コマンドを実行し、「Maintenance」メニューで CMU/IOU を選択します。

```
XSCF> addfru
```

- b. 「Maintenance」メニューに表示された手順に従って CMU を取り付けます。  
『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバースerviceマニュアル』の 6.2 節「活性交換/活電交換」を参照してください。

---

注 – 必ず `addfru(8)` コマンドの「Maintenance」メニューで、新しくマウントした CMU の診断を行なってください。

---

10. `showhardconf(8)` コマンドを使用して、取り付けた CPU モジュールがサーバによって認識されていることと、エラーを示すアスタリスク (\*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

11. `showlogs(8)` および `showstatus(8)` コマンドを使用して、異常な状態が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

12. オペレータパネルのキー位置を Service から Locked に変更します。
13. CMU に対して次の設定を行います。
  - XSB を設定します。
  - ドメインを設定します。
  - ドメイン上の CPU 動作モードを設定します。これらの設定については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』の第 2 章「XSCF 使用のためのセットアップ」を参照してください。
14. `setdomainmode(8)` コマンドを使用して、ドメインの自動起動機能を無効にします。  
詳細は、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』および `setdomainmode(8)` のマニュアルページを参照してください。
15. ドメインの電源を入れます。

```
XSCF> poweron -d domain_id
```

16. 対象とするドメインが正常に起動していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

17. `showlogs(8)` および `showstatus(8)` コマンドを使用して、異常な状態が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

18. SPARC64 VII プロセッサをサポートするバージョンの Solaris OS をインストールします。

サポートされているソフトウェアのバージョンについては、2 ページの「サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」を参照してください。

新しいドメインに Solaris 10 8/07 をインストールする場合は、インストールサーバー上のパッチ適用済みのイメージからインストールする必要があります。SPARC64 VII プロセッサで Solaris 10 8/07 を実行するために必要なパッチについては、3 ページの「Solaris 10 8/07 と SPARC64 VII CPU を使用する場合は必須パッチ」を参照してください。ネットワークベースのインストールについては、『Solaris 10 8/07 インストールガイド (ネットワークインストール)』(Part No. 820-1901) を参照してください。

19. `setdomainmode(8)` コマンドを使用して、ドメインの自動起動機能を有効にします。

自動起動機能は、ドメインを再起動すると適用されます。詳細は、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーガイド』および `setdomainmode(8)` のマニュアルページを参照してください。

## 既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサの追加

次のいずれかの方法で、既存のドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加することができます。

- 動的再構成 (DR) を使用してプロセッサを追加

すでに SPARC64 VII プロセッサをサポートするバージョンの XCP ファームウェアおよび Solaris OS が動作している場合は、DR を使用して既存のドメインにプロセッサを追加できます。サポートされているファームウェアおよびソフトウェアの最小バージョンについては、[2 ページの「サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」](#)を参照してください。DR については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー Dynamic Reconfiguration (DR) ユーザーズガイド』を参照してください。

---

**注** – ドメインの動作中に、ドメインの CPU の動作モードを変更することはできません。モードを auto に設定すると、次にドメインを再起動したときに自動的に適切なモード変更が行われます。

---

- ファームウェアおよび Solaris OS をアップグレードしてからプロセッサを追加  
XCP ファームウェアおよび Solaris OS の適切なバージョンが動作していない場合は、最初に次の手順を実行する必要があります。
1. [33 ページの「既存のドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する準備をする」](#)
  2. 取り付けの目的に応じて、次の手順のいずれかを選択します。
    - [35 ページの「SPARC64 VI で構成されているドメインに、SPARC64 VII を搭載した新しい CMU を追加する」](#)、または
    - [37 ページの「既存のドメインで既存の CMU を SPARC64 VII にアップグレードする」](#)

## ▼ 既存のドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する準備をする

1. 必要に応じて、SPARC64 VII プロセッサをサポートするバージョンの Solaris OS にアップグレードします。  
サポートされているソフトウェアのバージョンについては、[2 ページの「サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」](#)を参照してください。すべての必須パッチを適用します。
2. platadm 権限を持つアカウントで、XSCF にログインします。
3. showstatus(8) コマンドを使用して、現在 Faulted または Deconfigured の状態の FRU がないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
No failures found in System Initialization.
```

4. 対象とする CMU に割り当てられたドメインの電源を切ります。

```
XSCF> poweroff -d domain_id
```

5. 対象とするドメインの電源が切断されたことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

6. オペレータパネルのキー位置を Locked から Service に変更します。
7. XSCF スナップショットを収集して、アップグレードを実行する前にシステム状態を保存します。  
アップグレード手順の実行中に問題が発生した場合に、システム状態のスナップショットが役立つことがあります。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

8. XCP のバージョンを 1071 に更新します。  
ファームウェアを XCP 1071 に更新する前に、[5 ページの「XCP 1071 へのアップグレード」](#)を参照してください。ファームウェアの更新手順については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。
9. XSCF ファームウェアをリセットします。

```
XSCF> rebootxscf
```

10. fieldeng 権限を持つアカウントを使用して、ふたたび XSCF にログインします。
11. 対象とするドメインの電源を入れ、OpenBoot PROM ファームウェアを適用します。

```
XSCF> poweron -d domain_id
```

ok プロンプトが表示されます。Solaris OS を起動する必要はありません。

12. version コマンドを使用して、更新後の OpenBoot PROM のバージョンを確認します。  
XCP 1071 に対応する OpenBoot PROM のバージョンは 02.03.0000 です。出力は次のようになるはずですが。



```

XSCF> version -c cmu -v

DomainID 00 : 02.02.0000
DomainID 01 : 02.02.0000
DomainID 02 : 02.03.0000
DomainID 03 : 02.03.0000
...
DomainID 15 : 02.02.0000

XSB#00-0 : 02.02.0000 (Current), 01.01.0000 (Reserve)
XSB#00-1 : 02.02.0000 (Current), 01.01.0000 (Reserve)
XSB#00-2 : 02.02.0000 (Current), 01.01.0000 (Reserve)
XSB#00-3 : 02.02.0000 (Current), 02.01.0000 (Reserve)
XSB#01-0 : 02.02.0000 (Reserve), 02.03.0000 (Current)
XSB#01-1 : 02.02.0000 (Reserve), 02.03.0000 (Current)
XSB#01-2 : 02.02.0000 (Reserve), 02.03.0000 (Current)
XSB#01-3 : 02.02.0000 (Reserve), 02.03.0000 (Current)
...

```

13. 対象とするドメインの電源を切ります。

```

XSCF> poweroff -d domain_id

```

14. 次に示す適切な取り付け手順に進みます。

- a. SPARC64 VII を搭載したまったく新しい CMU を、SPARC64 VI プロセッサで構成されているドメインに追加する場合は、[35 ページの「SPARC64 VI で構成されているドメインに、SPARC64 VII を搭載した新しい CMU を追加する」](#)に進みます。
- b. 既存のドメイン内の既存の CMU を、SPARC64 VII プロセッサにアップグレードする場合は、[37 ページの「既存のドメインで既存の CMU を SPARC64 VII にアップグレードする」](#)に進みます。

## ▼ SPARC64 VI で構成されているドメインに、SPARC64 VII を搭載した新しい CMU を追加する

SPARC64 VII プロセッサを搭載した新しい CMU を、SPARC64 プロセッサで構成されている既存のドメインに追加する場合には、この手順を使用します。

1. 追加する CMU に、CPU モジュール (CPUM) を取り付けます。

手順については、『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーサービスマニュアル』の 6.4.1 節「CPU モジュールの交換」を参照してください。

2. サーバーに手順 8 の CMU を取り付けます。
  - a. `addfru(8)` コマンドを実行し、「Maintenance」メニューで CMU/IOU を選択します。

```
XSCF> addfru
```

- b. 「Maintenance」メニューに表示された手順に従って CMU を取り付けます。  
『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーサービスマニュアル』の 6.2 節「活性交換/活電交換」を参照してください。

---

注 - 必ず `addfru(8)` コマンドの「Maintenance」メニューで、新しく装着した CMU の診断を行なってください。

---

3. `showhardconf(8)` コマンドを使用して、取り付けた CPU モジュールがサーバーによって認識されていることと、エラーを示すアスタリスク (\*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

4. `showlogs(8)` および `showstatus(8)` コマンドを使用して、異常な状態が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

5. オペレータパネルのキー位置を Service から Locked に変更します。
6. CMU に対して次の設定を行います。
  - XSB を設定します。
  - ドメインを設定します。
  - ドメイン上の CPU 動作モードを設定します。

これらの設定については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』の第 2 章「XSCF 使用のためのセットアップ」を参照してください。

7. ドメインの電源を入れます。

```
XSCF> poweron -d domain_id
```

8. 対象とするドメインが正常に起動していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

9. showlogs(8) および showstatus(8) コマンドを使用して、異常な状態が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

## ▼ 既存のドメインで既存の CMU を SPARC64 VII にアップグレードする

既存のドメインで既存の CMU に対する変更を実行する場合には、この手順を使用します。次のいずれかを目的とします。

- SPARC64 VII プロセッサの追加 (addfru コマンドを使用)
- SPARC64 VI プロセッサを SPARC64 VII プロセッサに置き換え (replacefru コマンドを使用)

1. CMU に SPARC64 VII CPU を追加します。

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバースerviceマニュアル』の 6.2 節「活性交換／活電交換」で説明している、電源を入れたまま交換する手順を実行してください。この手順は、新しい SPARC64 VII CPU を追加する場合、または既存の SPARC64 VI CPU を SPARC64 VII CPU に交換する場合に使用できます。

---

注 – 必ず addfru(8) または replacefru(8) コマンドの「Maintenance」メニューで、新しく装着した CMU の診断を行なってください。

---

2. showhardconf(8) コマンドを使用して、取り付けられた CPU モジュールがサーバによって認識されていることと、エラーを示すアスタリスク (\*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

3. showlogs(8) および showstatus(8) コマンドを使用して、異常な状態が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

4. オペレータパネルのキー位置を Service から Locked に変更します。

5. 新しい CPU を追加した場合は、その CMU に対して次の設定を行います。

- XSB を設定します。
- ドメインを設定します。
- ドメイン上の CPU 動作モードを設定します。

これらの設定については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』の第 2 章「XSCF 使用のためのセットアップ」を参照してください。

6. ドメインの電源を入れます。

```
XSCF> poweron -d domain_id
```

7. 対象とするドメインが正常に起動していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

8. showlogs(8) および showstatus(8) コマンドを使用して、異常な状態が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```